



アフガニスタン・カブール

銃でも守られなかった？ アフガンの民主主義

世界銀行シニアエコノミスト 石原陽一郎

WATCH FIRE

【開発途上国の明日】



銃

を構えるアフガニスタン国軍と警官。国民に大統領選挙の参加を呼びかける看板には、「治安維持は僕たちの手で、投票は君たちの手で」と書かれている。

大統領選が行われた8月の治安事件発生件数は全土で約1600件と、単月で過去最高。投票者数570万人、投票率は40%以下と、国のリーダーを決める選挙としては寂しい結果だ。治安問題が低い投票率を招いたことは想像にかたくない。

それより残念なのは、選挙で多くの「不正・汚職」があったことだ。選挙前に街中で選挙登録用紙が売られていたり、地区の割り当て以上の投票用紙が投票箱にあたり、投票箱の自身すべてが一人の候補者だったりした。選挙管理委員会には結果に影響を及ぼすものも含め2000以上の不正・汚職が報告されている。

暫定結果では、カルザイ現大統領が55%、元外相のアブドゥラ候補が28%を獲得したが、不正・汚職調査の結果、カルザイ候補の投票率が50%に達しないことが判明。11月上旬に決戦投票が行われる予定だ。

どちらが大統領になるかにかかわらず、今回の選挙はアフガニスタンでの民主主義の定着に深刻な疑問と不信感を投げかけた。新政権は、まず今回の選挙のもたらした「負」の部分の修復という困難な仕事から始めなくてはならない。(写真も筆者)